



| 特集 |

その症状、もしかして せん妄？



認知症の悪化や
うつ病と
似ているけれど、
回復するんです

「安定して在宅生活を続けてこられたのに、点滴や入院をきっかけに
突然認知症の状態が悪化して引きこもってしまった」

「家で最期を迎えるために退院してきたけど、
薬を変えていないのに昼間はぼんやりして活気がない。
夜もあまり眠れていないみたい……」

こんな状態の利用者さんに会ったことはありませんか？
前者は「認知症の悪化」、後者は「終末期にみられるうつ病」と
みなすことが多いかもしれません。

でもこれらの症状は、実は「せん妄」に当てはまり、
原因を取り除けば回復する可能性があるのです。

「もしかしてせん妄？」という意識をもつことで、
利用者さんの在宅生活の質が大きく向上します。

井上真一郎

(岡山大学病院精神科神経科・助教)

岡山大学病院 精神科リエゾンチーム とは

私が所属する岡山大学病院精神科リエゾンチームは、2009年に発足して今年でちょうど10年になります。当初は精神科医と精神看護専門看護師でのスタートでしたが、その後、臨床心理士や薬剤師、理学療法士、認知症看護認定看護師が加わり、多職種の強みを活かして一般病院に入院している患者さんの精神的・心理的な問題全般に関わってきました。

入院患者さんについての相談で最も多いのは、今回のテーマである「せん妄」です。近年、多くの病院・施設で入院患者さんは高齢化の一途をたどっています。認知症の方が増えていますし、がんの患者さんもとて多くなりました。そのような患者さんは、身体の病気や薬、手術などをきっかけとしてせん妄を発症することが多く、当院においても例外ではありませんでした。そこで、当チームとしては、**特にせん妄対策に力を注ぎました。**

在宅医療従事者 対象の研修会を 全国で実施

すると私のところに、在宅医療に従事されている医師の方や訪問看護師さん、介護士さんから、「患者さんが自宅でせん妄を起こした場合、どのように対応をすればよいのか?」といった相談をいただくようになりました。

そこで、チームとしての臨床経験やノウハウが、在宅医療の現場で少しでもお役に立てばと考え、厚生労働省や民間財団の助成をいただき、検討を重ねて「せん妄に関する教育プログラム」を作りました。そしてこれまで、**全国各地で在宅医療従事者を対象としたせん妄対策研修会を実施してきました。**

本特集では、その研修会での講義を**4部構成**にアレンジし、誌上に再現したいと思います。



せん妄対策研修会
(主催：公益社団法人愛知県医師会／愛知県)
2018.12.22.(名古屋)、2019.1.26.(名古屋)、2.16.(豊橋)